

愛らしいゴキブリたち

たかくまさとし
高桑正敏 (学芸員)

当館の昆虫展示における目玉は？とよく聞かれます。私は習慣的に「メダマヤママユ！」とか「メダマカマキリ！」と反応してしまうのですが、それ以上に自慢できるのがテントウゴキブリなのです。「昆虫の世界」展示における擬態コーナーの一角に、オオテントウ類に混せて展示してあるのにお気づきでしょうか？

私にとって、このゴキブリは憧れでした。ゴキブリのくせにテントウムシそっくりで、それこそおとぎの世界に登場するような空想めいたイメージだったからです。「擬態—自然も嘘をつく—」(W. ヴィックラー著、羽田節子訳、1970、平凡社)という本の中でその存在を初めて知ったのですが、そこに図示されていたのは写真ではなくて描かれたカラー絵でした。つまり、よほど珍しい種なのでしょう(その本にはよく見かけられるように書かれてはいますが)。実際、私自身はその後もずっと標本も写真すらも見ることはありませんでした。

でも、当館の擬態展示を企画する中で、どうしても欲しい種類でした。そこで当時、標本収集を依頼していた昆虫研究者Nさんに「何としてでも！」とお願いしていたところ、「いくつか手に入ったよ！」という朗報が来たのです。思わず「全部ちょうだい！」と叫んでしまいました。インドネシアのスラウェシ島から大量のテントウムシを入手したところ、その中に混じっていたとのことですが、1匹ずつ標本整理をしていて初めてテントウゴキブリが混じっていたことに気づいたそうです。Nさんのような超一流のプロですらちょっと見にはわからなかったほどですから、そのテントウ

ムシ擬態の完成度の高さに驚きます。

当館の「昆虫の世界」にはもう1種のゴキブリが標本として展示されています。「変わった姿・形」コーナーのシンボル展示ケース内のヨロイモグラゴキブリです。その和名から連想できるように、種名ラベルを見なければゴキブリとはわからないほど大型で奇妙なこの昆虫は、地中で家族生活を営む(子育てを行なう)という変わり者としても有名です。ゴキブリというイメージがないためか、分布地のオーストラリアではペットとして飼われることもあり、かわいいので手のひらに乗せてなであげる子供たちもいると聞きました。

さて、愛らしいゴキブリといえば、どうしても東南アジアのルリゴキブリ類を紹介しなければなりません。その美しい色彩には、誰しもが思わず目を見張ることでしょう。熱帯のジャングルの中で強烈な陽射しを浴びて活動するその姿は、もはやゴキブリというイメージがありません。つい先日、タイ北部で山頂に吹き上がってくる昆虫を次々と採集していたときです。すばやいがおかしい飛び方のものを採集してみたら、なんとオオルリゴキブリの1種だったのです。日中にジャングルの上を飛ぶゴキブリなんて信じられますか？

これらルリゴキブリ類はけっして多くはなく、むしろ発見は困難な仲間です。それに比べ、東南アジアでは下草の葉上にそれこそたくさん見かけられるのがキスジワモンゴキブリです。黄色のスジが目立って美しいといえそうですが、こちらはけっして「本格的な」ゴキブリで、

じつはおなじみのクロゴキブリなどと同じゴキブリ科に属します。

ところで、ゴキブリの生態写真図鑑が発行されているのをご存知ですか？ その書名もズバリ「ゴキブリだもん〜美しきゴキブリの世界〜」(鈴木知之、2005、幻冬社)。「本格的な」ゴキブリもたくさん登場しますが、前述のヨロイモグラゴキブリ



図3. キスジワモンゴキブリ。タイ東部；高桑撮影。

はじめ愛らしい種がいくつも紹介されていて、みなさんのゴキブリ観を変えてしまうかも。じつは、当館のある学芸員の奥さんは、その愛らしいゴキブリのコレクターなのです(夫の方だったらゴキブリ亭主と言われかねないですね)。そうそう、残念なことにこのゴキブリ図鑑にもテントウゴキブリが出ていません。よっぽど珍しいのか、あるいは葉の上で生活しているときは、プロをもあざむくほどテントウムシにそっくりなのか。いつか私の目で生きている姿を見てみたいものです。

いずれにしろ、みなさんにはテントウゴキブリの展示標本をじっくりとご覧いただきたいと思います。もしかすると、日本では当館でしかテントウゴキブリを展示していないかもしれませんよ。なぜって、Nさんからはすべて頂戴してしまったのですから。

お断り：ここではあえてテントウゴキブリの標本写真を掲載しません。いじわるなようですが、実際にみなさんの目で標本を見ていただきたいからです。



図1. オオルリゴキブリの1種。タイ北東部；高桑撮影。



図2. ルリゴキブリの1種。台湾中部；高桑撮影。

自然科学のつと
第12巻2号 (通巻45号)
2006年6月15日発行
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 斎藤靖二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>

編集 木場英久
印刷所 文化堂印刷株式会社

© 2006 by Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

R100

PRINTED WITH
SOY INK
Trademark of American Soybean Association